

『現代都市の問題』（現代社会問題研究 第4巻）

佐野利器・小川市太郎 著

日本社会学院調査部 [編]

冬夏社 [刊]

1921年 19cm/209頁 図書番号 OA-0173

---

本書は序論を佐野利器、本論を小川市太郎が担当している。

序論において佐野は、現代都市の職能の主たるものは商工業であり、その発達と因果関係にある都市への人口集中は、居住の密集など様々な弊害を引き起こす。都市における形而上の問題のなかで最も重要なのは不知者間の道義に関する問題であるとする。農村において日常必要とされる道義は近親者間の道徳である。しかし都市では、一面識もないような他人と密接な連鎖的共同生活を営むため、必要とされるのは公德である。残念ながら日本において公德の訓練は未だなされていない。このような状況では、いかなる公的施設も健全な経営・運用が期待できず、自治行政が腐敗するのも当然である。日本の大都市は自治が不可能であるとする者もいるが、それは連鎖的共同生活を不可能とすることと同意義であるので、知識の普及と訓練によって公德の養成を期せねばならないとする。そして、「現代都市は日に益々屈縮せられつゝ拡大する所の共同生活の場所である。此意義を全ふするに不利なるものは其の何の種類の問はず直に都市問題として発現するのである。都市の健全なる発達は都市問題の解決と歩を共にし地方村落の健全なる発達と相俟つて国運を隆勢ならしむる所以であらねばならぬ」と結んでいる。

本論において小川は、発達する都市において問題となりつつある都市計画問題、住宅問題、都市行財政問題、市場問題、土地政策問題などについて所説を述べている。

都市計画については、その意義を「都市をば最も市民の文化生活に適せしむるよう運営しやうというのであって、健全と、有効と、利便と、美は、都市計画の根本目的である」とする。そして都市計画の事業のうち、主に道路や高速度電車の問題を論じており、電車に関しては大阪市都市計画課が発表した大阪市の鉄道及停車場改造についての意見を紹介している。

住宅問題については、住宅難の原因を、大都市における人口の集中と、家屋そのものに附随する経済上の特徴（貸家の需要と供給の不均衡等）とする。住宅難は家計、衛生、道徳等日常生活に影響を及ぼすものであり、その救済策を講ずるにあたっては、量と質の二方面から考えてみなければならないが、焦眉の問題である住宅の欠乏と家賃の高騰の解決策として、建築組合など5つの組織や設備を略説している。

また住宅問題に限らず、様々な社会的事業の施行の障害となっている市有地の欠乏について、当面の策としては不要官有地の払下げを断行するほかに途がないが、根本方針としては、将来の必要に応じるために、適当の時期と場所に土地を買収しておくことを心掛けねばならず、そのためには土地の投機を防止する手段を取ることが必要であると説いている。

佐野は1903（明治36）年東京帝国大学工科大学建築科卒業。1918（大正7）年、同大教授となる。関東大震災後には帝都復興院建築局長を務めた。小川は1906（明治39）年東京帝国大学法学部政治学科卒業。1911（明治44）年、大阪毎日新聞社入社。1930（昭和5）年より大阪商科大学（現・大阪市立大学）非常勤講師を務めた。

（山野辺香葉・市政専門図書館司書主任）